

まちを照らすふれあいのともじび

冬の寒さが厳しい二月。拓北・あいの里地区では、幻想的なアイスキャンドルの明かりがまちを照らします。それは、「ふれあいキャンドルコンテスト」というイベントが開催されるためです。このイ



▲開催初年度に作られたアイスキャンドル。より華やかになるように、氷の中に花を入れた創意あふれる作品もありました。今年で3回目を迎える「ふれあいキャンドルコンテスト」では、どのような力作が生まれるのか楽しみですね

ベントでは、各家庭や商店などがアイスキャンドルを作り、そのデザインやアイデアを競うコンテストを行います。これは、連合町内会や商店街組合などで結成する拓北・あいの里地域情報会議のイベ

ント部会が企画したものです。部長の桜田明さんは、「拓北・あいの里地区は、市内でも積雪が多く、冬の寒さが厳しい地域です。だからこそ地域性を生かした、そして、みんなが楽しめるお祭りを実施したいと考えたんです」と、このイベントが生まれたきっかけを話してくれました。



▲桜田さんの言葉からは、このイベントへの熱い思いが伝わってきます

同会議事務局長の山田太郎さんは、「明るく住みよいまちをつくるには、良い人間関係を築くことが重要です」と、話します。「このコンテストでは、大人も子どもも一緒にアイデアを練って作品を作ったり、近所の人たちがお互いにアイスキャンドルを見て回ったりします。ですから、家族ぐるみ、地域ぐるみのふれあいを深めることができるんですよ」と、胸を張って教



▲「地域の良い人間関係がまちづくりの基本」と、話す山田さん

えてくれました。

このイベントの見どころは、アイスキャンドルコンテストだけではありません。もう一つの目玉は、あいの里教育大駅から篠路中学校までの約三キロメートルの道路を、アイスキャンドルで飾るキャンドルロードです。昨年は、約四百個のアイスキャンドルがとまりました。今年はさらに数を増やす予定です。「自発的に道路をアイスキャンドルで飾ってくれる家庭が、毎年、少しずつですが増えてきています」と、山田さんはうれしそうに話します。

こうした動きがますます広がり、街全体をやわらかな光で包んでほしいというのが、地域情報会議のメンバーの大きな夢。その夢が実現する日が待ち遠しいですね。

広がれ！ まちづくりの輪

今回紹介した二つの事例は、どちらも連合町内会や商店街、ボランティア団体や学校など、地域のさまざまな団体が連携して行っている活動です。北区では、まちづくり活動に取り組んだり、地域の課題の解決策を考えたりしているこのような組織を、「コミュニティネットワーク（Cネット）会議」と位置付けています。そして、地域の皆さんの主体的なまちづくり活動を応援するため、Cネット会議に対して助成金の交付や活動のアドバイザー派遣などへの支援を行っています。

北区は、地域に住む人たちとともにまちづくりを進める「協働型社会」の実現を目指していきます。

■コミュニティネットワーク会議に関するお問い合わせは、地域振興課（75）2400内線222へどうぞ。